はじめに

今年の雪は留学生たちに利賀の雪の多さを見せようとしているのか、本当に一生懸命降ってくれています。定期的な晴れ間をのぞかせながら繰り返し降った大雪で、村内各所には 2m を超える“雪の小谷”が出現。そんな雪を眺めながら温かい部屋でぬくぬくとしたいところですが、そうは言ってられません。毎日の雪よかしで利賀では夏よりも冬の方が運動量が増えるみたいです。

センターの子どもたちも雪の楽しさを知りつつ、その大変さも身をもって体験し、雪国暮らしの奥深さを経験しています。冬の初めに踏み固めた雪の通学路も、正月明けの大雪の朝、とうとう前に進むのが難しくなり、使うのを諦めざるをえませんでした。「昔はそんな道をかんじきをはいて年長生が先に立ちながら、みんなで登校したんだよ」という地域の年配の方のお話が、自分たちの実体験と結びついたのではないかなと思います。

2 月 20 日にはセンターで「利賀元気市」が開催され、留学生も太鼓を披露しました。村内でも初めてこの演奏を見た方が多く、「すごい迫力だった」「声がよく出ていたね」「団結力が出てきたね。交代の瞬間が息ぴったりだった」と声をかけてくださいました。コロナ禍で今年は難しかったのですが、これからもこのように地域の方にセンターへ足を運んでいただく機会を増やしていきたいと考えています。

修園まであとひと月。この深い雪の下から現れる利賀の山菜は、短い時間で一気に伸びるので太くてやわらかだと評判ですが、留学生たちも、1 年頑張った成果が春の雪解けとともに一気に花開くことを願って。残りの学園生活と冬を満喫してほしいと思います。

須河　紗也子

《1・2月の活動カレンダー》

1月

27 日　センター入り
29 日　個人体験活動日（～30 日）

2月

5日　俳句教室（地元生参加活動）
6日　アルペンスキー（スポ少）
11 日　アルペンスキー、キャンドルロード
12 日　クロスカントリースキー、かまくら体験、雪遊び（地元生参加活動）
13 日　個人体験活動日
15 日　ホームステイ開始
25 日　センター入り

〒939-2516　富山県南砺市利賀村坂上 18　南砺利賀みらい留学センター
TEL：0763-77-4103　　FAX ： 0763-77-4037
MAIL：nanto-toga-mirai@p1.tst.ne.jp
WEB：http://www.nanto-toga.com/

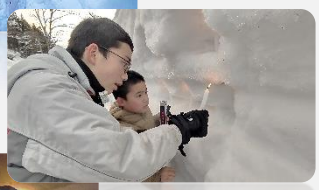
２／５　俳句教室

　青年団の野原裕人さんを講師にお迎えし、俳句教室を行いました。俳句の歴史や「２つの要素を入れてみると良い」「楽しんで作るもの！」などと教えてもらい、季節を感じるため、いざ雪の降る野外へ。散策班と遊ぶ班に分かれて１時間ほど過ごしました。戻ってきた後は俳句を作り、一人ひとつ紹介しました。「雪兎 巣のおく深く忍びかな」「新雪に かくれる氷 いつもびっくり」など、それぞれに個性ある句を作り上げていました。今回は、地元利賀の子どもたちもお誘いし、初めて留学生と一緒に活動してもらうことができました。

２／１１　アルペンスキー

　久しぶりにいい天気で迎えた週末、２度目のアルペンスキー活動をタカンボースキー場で行いました。学校でのスキー学習や、週末のスポーツ少年団でスキーの経験を積んでいたため、最初のスキー活動からは見違えるほどの変化がありました。

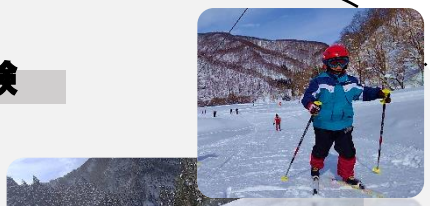
　今回は、公認指導員の資格を持つ青木代表理事に講習をしていただき、「みて！なだらかな斜面だったら板揃えられるようになったよ！」と個々のレベルアップを実感した１日となりました。



キャンドルロード

　利賀地域づくり協議会の方からロウソクをたくさんいただき、このイベントに参加しました。スコップやのこぎりを使って、「穴掘りすぎたね…」と言うほど、キャンドル用の穴を掘っていました。きれいに形を整えたり、顔型に掘り出したり、こだわって作る人もいました。17 時に点火しましたが、まだまだ明るかったため一旦火を消し、夕食後に再度火を点け、見に行くことに。そして、外は暗くなり、自分たちで作ったキャンドルロードを見ると「きれいー！」「いい感じにできているね！」と嬉しそうに話していました。また、星もきれいに見え、「あれがオリオン座で、こっちが…」と話す姿もあり、夜の時間を楽しんでいた留学生たちでした。

２／１２　クロスカントリースキー・かまくら体験



　この日はスポーツ少年団の活動がお休みだったので、午前中はスノーバレー利賀へ行き、クロスカントリースキーをしました。２回目のクロカンで、板の扱いに慣れてきた留学生。動物の足跡を追って「これは何だろう」と観察したり、「登ってくる！」とゲレンデの上を目指したり。「オリンピックだ！」と競争したり、「マイコースを作ったよ！」とお気に入りの雪道を見つけたりする姿もありました。

　その後は、上百瀬地区のかまくらにお邪魔して昼食を食べました。「すごい…」とかまくらの大きさに驚きながら、気に入った場所に座って箸をすすめていました。

雪遊び

　午後からは利賀の地元生と一緒に雪遊びをしました。この日は、スキーなどの活動が多い３学期の中で、自由に雪と戯れられる日であり、また、地元生と一緒に遊ぶことができる日だったためかいつも以上に楽しそうに雪遊びをする留学生たち。指導員と一緒にそりコースを作り、そのコースを滑走したり、雪洞を掘ったり、雪をひたすら積み上げたり、と楽しみ方は人それぞれでした。休憩タイムには、ジュースやシロップを雪にかけて味見しました。「おいしい！」「全部の味を食べるぞー！」と喜んでいて、何度も何度も雪を口にする子どもたちでした。

〈　日常の様子　〉

スポ少の様子
ポールの間を滑走。

帰園後、
事務室に小学生が集結。

「利賀元気市」で演目舞台発表。
新演目を初披露しました。

利賀みらい留学に寄せて

「南砺利賀みらい留学」の初年度も残すところ１か月余りとなりました。山村留学生と利賀在住の子供たちが互いに刺激し合い、利賀小学校がこれまで以上に大きくバージョンアップしました。

たくさんの友達と意見を交わす、自分と違う意見の友達と折り合いをつける、チームを作って対戦するなどといったことがこれまで以上にダイナミックにできるようになりました。学年を問わず声をかけ合う、相手のことを思いやって行動する、途中で投げ出すことなく粘り強く取り組むという利賀っ子のよさは、さらに磨きがかかりました。親元を離れて暮らす山村留学生の苦労や努力を知ることで、家族について考えたり、これまで当たり前に思っていたことに感謝したりする様子も見られました。また、山村留学生が教えてくれる情報から、利賀に居ながらにして、全国各地の特色を知り、興味を広げたり、あらためて利賀を見直したりする機会もできました。こんなすばらしい環境を整えてくださった地域の方々、里親のみなさん、留学センターの指導員の方々の大きな支援に感謝申し上げます。そして、これからもさらなるご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

高田　公美　先生
（ 南砺市立利賀小学校　校長 ）

利賀みらい留学がはじまり、やがて一年が経とうとしています。かつて私自身が最後の入学生として一年間だけ通い学んだ坂上小学校のあった場所で、また留学生の子供たちが色んな事を学び体験しながら成長していくこと、心よりうれしく思います。

新型コロナウイルスの影響で私たち青年団も今までのような活動ができない中で、秋には留学生たちと一緒に焼き芋をしました。留学生と雑談等もしながら楽しく焼き芋をすることができました。正直うまく焼けなかった芋もありましたが、そういった失敗も含めて良い経験になったのではないかと思います。青年団としても、留学生だけでなく指導員の方々との交流も含めてとても刺激になっています。

留学期間も残り少なくなってきましたが、留学生たちには元気で過ごしてくれることを願っています。そして将来、大人になってからも気軽に利賀村に顔を出してくれればいいなと思います。

野原　一起　さん
（ 青年団団長 ）

《くま爺のつぶやき》

南砺利賀みらい留学
統括主幹　山本

10 年ほど前の冬のこと。山村留学を希望する親子と学校見学にでかけた時、学校の図書室で「昔の暮らし再現」という冊子が目に留まり読んで衝撃を受けた。今から 60 年～80 年の子どもたちを取り巻く環境や暮らしぶりが紹介されていた。遠くまで歩く遠足、朝夕の家族の役割、タご飯のルール、子どもたちの遊び、年上の子どもから教わり大きくなったこと、便利なものがなく、ないない尽くしの生活。人と人とのつながりがあり、助け合いがあり、みんなで工夫し、乏しさの中の豊かさが描かれていた。「昔の暮らし再現が山村留学のキーワードなのだ」とあらためて確認した次第。昔と現在では生活スタイルも子どもを取り巻く環境も異なるが、ひと昔前の暮らしを大切にしていきたい。